

# 日本輸送サービス労働組合連合会（JTSU）「緊急提言」

全組合員の皆さん！グループ会社で働く仲間の皆さん！

そして、エッセンシャルワーカーとして働く仲間の皆さん！

私たちJTSUは、グループ会社で働く組合員の「体験談」を基に、6項目の「緊急提言」を发出します。

1. 希望者全員にPCR検査の実施を行うこと
2. 職場でコロナウイルス感染が発生したときは、職場全員のPCR検査を実施することで、更なる感染拡大を未然に防止し、安心して療養できる職場を確立すること
3. 組合員の声を基に、組合員・保健所・病院・会社の相互チェックで重症化および感染拡大を防止すること
4. エッセンシャルワークに対する企業および社会的評価を高め、エッセンシャルワーカーの労働条件を向上すること
5. 労働条件の整備および生活補償などに関する要望を集約し、実現を目指すこと
6. 日本の製薬労働にエールを送り、ワクチンおよびコロナウイルス治療薬の開発をはじめとして社会全体が「儲け」より「必要性」を重んじる経済システムへの変革を行うこと

政府および大企業を中心とする経営陣は、「緊急事態宣言」を解除した際に、経済回復に集中し、そのスピードを上げるために、労働者に更なる「生産性向上」を強行すると考えられます。しかし、本来は今なお続くコロナウイルス感染拡大を防止し、感染者や家族の貴重な体験などを教訓化し、「命」を最優先に、「今、本当に必要なことは何か」を働く者と共に考えられる社会に変革していく必要があるにも関わらず、JR東日本会社およびグループ会社は、コロナ危機に便乗し、「変革2027」の完遂に向けてスピードを上げています。私たちは、「儲け」を取り戻すことではなく、一旦立ち止まり「今、何をすべきか」「今、何が必要なのか」を考えるべきです。

駅は、身体にハンディを持つ多くのお客さまの対応が不十分にもかかわらず、無人化やターミナル駅に高層ビルを建設しようとしています。それらは本当に必要なのでしょうか。「都会の空箱」となり、座礁資産（投資が戻らないまま、廃墟となる資産）の責任を労働者に転化させてはなりません。また、気候変動に伴い自然災害が増加し「社会的安全」が問われている中で、「予防・予知安全から墓石安全（発生主義）」に変更し、ジョブローテーションに代表されるように専門性を重視せず、社員を不安にする経営手法で本当に良いのでしょうか。社会全体がレジリエンス（異常事態における復元力）を求めているときに、自動運転化やメンテナンス要員の削減は本当に必要なのでしょうか。それよりも「命」を最優先するために、適切な「人」を配置し、「人」の生活や「地球環境」を守るための「命」への投資を重んじるべきです。

私たちは、これから訪れる脱炭素・化石燃料文化の終焉を見据え、将来「グリーンジョブ」（自然エネルギーで働く労働者）を目指し、「成長」より「成熟社会」への移行に向けて、「必要性」を重んじる社会と経済システムへの変革を求めていくことが必要です。

したがって、私たちJTSUに結集する仲間たちは、6項目の緊急提言を実現するため、第一に、各単組やグループ会社で働く仲間と共に、感染してしまった仲間たちの貴重な体験談を聞きながら、コロナの教訓と様々な諸課題を集約していきます。

第二に、各単組での労使協議において職場環境の整備を「制度化」へと高め、練り上げた「労働政策」を「エッセンシャルワーカー」との連帯で創造し実現させていきます。そして、第三に、「連帯」を社会運動へと広げ、「成長」ではなく「必要性」の議論を成熟させ、JTSU議員懇談会と共に、社会システムの変革を目指し、奮闘していくこととします。

以上を決意し、「緊急提言」とします。

2021年3月8日  
日本輸送サービス労働組合連合会（JTSU）  
第10回執行委員会